

* Troughton & Simms London マイクロメーター発見

2008年11月20日、65cm赤道儀望遠鏡ドームの観測床への昇降階段の下を探索した。目的は、65cm赤道儀望遠鏡の2代目のカメラの探索であった。それらしきものも発見したが、筆者にはそれよりももっと興味深いものを発見した。段ボール箱に乱雑に放り込まれた古い木箱（写真1）があったのである。



写真1 クックポジションマイクロメーターと書かれた木箱

その箱には「クックポジションマイクロメーター」と白ペンキで書かれ、7.5インチ用と書かれている。7.5インチは19.05cmである。クックという望遠鏡には覚えがあった。その中には経緯儀接眼部のマイクロメーターのようなもの（写真2）が入っていた。



写真2 経緯儀の接眼部のようなマイクロメーター

そしてもっと驚いたことは、そのマイクロメーターにはなんと、Troughton & Simms London の刻印（写真3）があったのである。



写真3 重厚な刻印 Troughton & Simms, London の刻印

トロートン・シムス望遠鏡にも当然覚えがある。今は国立科学博物館に展示されているが、1888年の東京天文台設立時に内務省地理局から移管されたと東京大学百年史部局史Ⅲ東京天文台に18ページに記載されている。しかし、この望遠鏡の口径は20cm、焦点距離270cmとあり、口径は7.5インチとは違っているので、このマイクロメーターが20cmトロートン・シム望遠鏡用であるとは決めがたい。なお、クック製18cm太陽写真儀というものが大正11年頃購入されたという記録もある。この望遠鏡は口径18cm、焦点距離213cmで、当時井上四郎が太陽の写真観測に用いたものであり、やはり7.5インチは合致しない。この接眼部にはいろいろなアクセサリ（写真4）が付いていて興味深い。



写真4 接眼部の多数の交換部品、フィルター、90度プリズム、ルーペなど

この接眼部を覗くと、プラン子午儀のアイピースを覗いた時見たのこぎりの刃のような楔形が並んでおり、十字線が見えた。この写真 5 では十字線ははっきり見えないが視野の下に楔形、上部に十字線が見える。

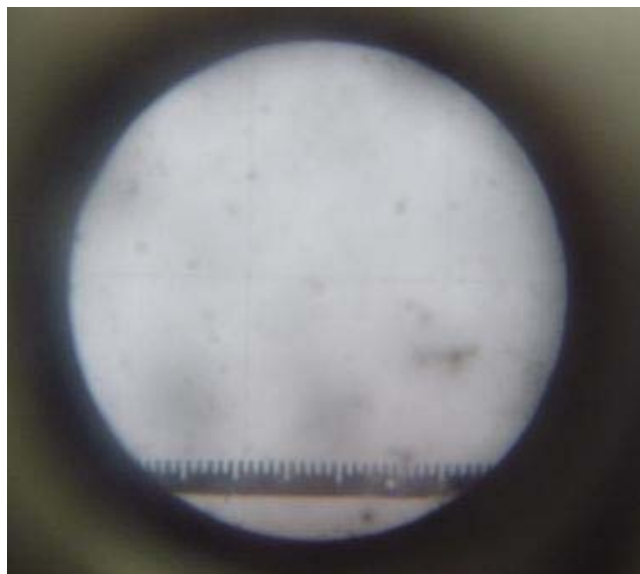


写真 5 アイピースの中に見える楔形のもの

この接眼部は、重厚で興味深い。今回は発見の速報でこれからいろいろ調査をしてみたい。写真 6 は接眼部に 90 度プリズムのものを装着したものである。



写真 6 重厚な Troughton & Simms, London 接眼部